

工大一V 光る小技

春季
県高校野球

最終日

春季東北地区高校野球県大会は最終日の29日、青森市の県営球場で決勝と3位決定戦を行った。昨年夏の県大会決勝と同じ顔合わせとなった決勝は、工大一が八回にスクイズとバントヒットで2点を奪い、逆転に成功。3-2で八学光星との八戸勢対決を制し、12大会ぶり7回目の優勝を飾った。3位決定戦は、六回に4点を挙げて逆転に成功した青森山田が7-6で弘前学院聖愛を破った。工大一は本県第1代表、八学光星は同第2代表として、6月7日から岩手県で開かれる東北大会に出場する。
(本紙取材班)

八戸対決 光星に競り勝つ



8回2死 意表突くバント

ハイライト

が光った。小技を駆使した連続。「粘り強く戦った攻撃で3得点、相手のてくれた」。長谷川監督が攻守で八工大一らしき、強力打線を失点に抑え、12大会ぶりに頂点に

【決勝（県営球場）】
八工大一 0000 100 0020 3
八学光星 0000 200 000 2
(一) 斎藤、白石、藤島
(二) 藤島、白石、藤島
(三) 藤島、白石、藤島
(四) 藤島、白石、藤島
(五) 藤島、白石、藤島
(六) 藤島、白石、藤島
(七) 藤島、白石、藤島
(八) 藤島、白石、藤島
【評】八工大一は1点を追う八回、四球や二塁打などで1死二、三塁とた。自分の役割。積極的に決めた。三塁走者が生還して勝ち越すと、無我夢中の一塁に滑り込んだ勝利の立役者は「やっつやっつ」と破顔一笑した。守備では四回途中からマウンドに立った白石が奮闘した。変化球と直球を取る一投球で相手打線を無失点に抑えた。「今日の勝因は白石の好投」と指揮官に言われ、めた背番号16の右腕は「ピンチの場面での意表突く」とも言っていた。初球、低めに来た直球を一本だけ考えて全力で返した。第1代表としてつかんだ東北大会の切符。伝統の機動力を生かし東北制覇を目指す。（種方好華）